

学科	服飾美術学科	担当教員	宇野 保子																																
授業科目	服飾文化史		科目区分	専門科目	2 単位																														
必修・選択	選択	授業形態	講義	開講時期	1, 2 年次・前期 (隔年・集中)																														
授業の主題 目 標	<p>現代において服飾は、個々人の自己表現であると共に、その社会全体の文化表現のひとつでもある。本講義では人々が様々な時代や社会背景の中で、装いの美を求めてきた軌跡をたどり、現代の衣に連なる服飾表現の無限の可能性を理解することを目標とする。すなわち、服飾表現の温故知新を目指し、歴史の中の表現を今後のデザインの発想に活かすことができる学びを促す。</p> <p>具体的には、各時代の服飾表現を生活文化の中で捉え、その変遷と後世への影響などの視点から、日本を中心とした服装の歴史を学ぶ。近代以降は、特に外来文化としての洋服受容、第2次大戦後は、世界モードの中でのファッションを中心に学ぶ。</p>																																		
授業の内容 進 め 方	<p>次のような観点から各時代の服装を捉え、最後に歴史の中の服装表現としてまとめ、理解度を確認する。各時代の基本的な着装構成ごとの、形、色、素材 等についても映像で学ぶ。</p> <table border="0"> <tr> <td>1. 服装史へのいざない</td> <td>服装史を学ぶことの意義と現代への応用について</td> </tr> <tr> <td>2. 先史・古墳時代</td> <td>服装のはじめとされる原始衣・埴輪の服装について</td> </tr> <tr> <td>3. 飛鳥・奈良時代</td> <td>服制による衣服・庶民服と宗教服</td> </tr> <tr> <td>4. 平安時代</td> <td>宮廷服飾の発達 (束帯・唐衣裳等の着装を中心)</td> </tr> <tr> <td>5. 鎌倉・室町時代</td> <td>公家服飾の推移・武家服飾の成立</td> </tr> <tr> <td>6. 戦国・安土桃山時代</td> <td>武家服飾の分化・小袖の発達・能装束</td> </tr> <tr> <td>7. 江戸時代</td> <td>制度としての服飾・小袖と帯の発達</td> </tr> <tr> <td>8. 江戸時代</td> <td>庶民の服装と職業風俗・流行と美意識</td> </tr> <tr> <td>9. 欧州・近代の服装</td> <td>クリノリン・バックスルスタイル等を中心にして</td> </tr> <tr> <td>10. 明治・大正時代</td> <td>洋服受容の過程・和服の変化・染織界の近代化</td> </tr> <tr> <td>11. 欧州・現代の服装</td> <td>現代モードの源流・アメリカンスタイルの登場とその周辺</td> </tr> <tr> <td>12. 昭和時代</td> <td>戦時中・戦後の服装</td> </tr> <tr> <td>13. 昭和・平成・令和時代</td> <td>アパレル産業の発展と既製服</td> </tr> <tr> <td>14. 現代の世界ファッション</td> <td>1950 年以降のファッションデザイナーの時代を中心に</td> </tr> <tr> <td>15. 歴史の中の服飾表現</td> <td>まとめと定期試験</td> </tr> </table>					1. 服装史へのいざない	服装史を学ぶことの意義と現代への応用について	2. 先史・古墳時代	服装のはじめとされる原始衣・埴輪の服装について	3. 飛鳥・奈良時代	服制による衣服・庶民服と宗教服	4. 平安時代	宮廷服飾の発達 (束帯・唐衣裳等の着装を中心)	5. 鎌倉・室町時代	公家服飾の推移・武家服飾の成立	6. 戦国・安土桃山時代	武家服飾の分化・小袖の発達・能装束	7. 江戸時代	制度としての服飾・小袖と帯の発達	8. 江戸時代	庶民の服装と職業風俗・流行と美意識	9. 欧州・近代の服装	クリノリン・バックスルスタイル等を中心にして	10. 明治・大正時代	洋服受容の過程・和服の変化・染織界の近代化	11. 欧州・現代の服装	現代モードの源流・アメリカンスタイルの登場とその周辺	12. 昭和時代	戦時中・戦後の服装	13. 昭和・平成・令和時代	アパレル産業の発展と既製服	14. 現代の世界ファッション	1950 年以降のファッションデザイナーの時代を中心に	15. 歴史の中の服飾表現	まとめと定期試験
1. 服装史へのいざない	服装史を学ぶことの意義と現代への応用について																																		
2. 先史・古墳時代	服装のはじめとされる原始衣・埴輪の服装について																																		
3. 飛鳥・奈良時代	服制による衣服・庶民服と宗教服																																		
4. 平安時代	宮廷服飾の発達 (束帯・唐衣裳等の着装を中心)																																		
5. 鎌倉・室町時代	公家服飾の推移・武家服飾の成立																																		
6. 戦国・安土桃山時代	武家服飾の分化・小袖の発達・能装束																																		
7. 江戸時代	制度としての服飾・小袖と帯の発達																																		
8. 江戸時代	庶民の服装と職業風俗・流行と美意識																																		
9. 欧州・近代の服装	クリノリン・バックスルスタイル等を中心にして																																		
10. 明治・大正時代	洋服受容の過程・和服の変化・染織界の近代化																																		
11. 欧州・現代の服装	現代モードの源流・アメリカンスタイルの登場とその周辺																																		
12. 昭和時代	戦時中・戦後の服装																																		
13. 昭和・平成・令和時代	アパレル産業の発展と既製服																																		
14. 現代の世界ファッション	1950 年以降のファッションデザイナーの時代を中心に																																		
15. 歴史の中の服飾表現	まとめと定期試験																																		
実務経験を 活かす内容																																			
テキスト 教 材	<p>『概説 日本服飾史』 小池美枝 他 光生館 ISBN978-4-332-10044-7 担当者作成の小冊子の配布資料 パワーポイントのハンドアウト 『服装の歴史』 一橋ビデオシリーズ 全3巻</p>																																		
準備学習の 具体的内容	<p>標準教材の概説書の、当日の講義部分に目を通しておく。 受講後は、配布資料、パワポのハンドアウトなどのメモを整理し、自身の考えをまとめておく。</p>																																		
評価の方法 基 準	<p>期末のテスト (記述式) (60%) フィード・バック・カード (20%) ビデオ鑑賞後のレポート2 (20%)</p>																																		
履 修 上 の 注 意	<p>歴史の流れの中で服装を捉えるので、日本史・世界史の初歩の知識は必要。 しかし、服飾に興味があれば特に問題はありません。</p>																																		